

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
 【発行日】 平成 18 年 7 月 6 日 (2006.7.6)

【公表番号】 特表 2006-502750 (P2006-502750A)
 【公表日】 平成 18 年 1 月 26 日 (2006.1.26)
 【年通号数】 公開・登録公報 2006-004
 【出願番号】 特願 2004-517584 (P2004-517584)
 【国際特許分類】

A 6 1 C 5/08 (2006.01)

A 6 1 K 6/00 (2006.01)

A 6 1 K 6/083 (2006.01)

A 6 1 C 13/15 (2006.01)

【F I】

A 6 1 C 5/08

A 6 1 K 6/00 A

A 6 1 K 6/083 5 3 0

A 6 1 C 13/14 B

【手続補正書】
 【提出日】 平成 18 年 5 月 19 日 (2006.5.19)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 特許請求の範囲
 【補正対象項目名】 全文
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

表面に硬化性歯科用接着剤を塗布するステップ、

前記表面上の前記硬化性歯科用接着剤に硬化性歯科用コンポジットを塗布するステップであって、前記硬化性歯科用コンポジットが光開始剤の濃度の異なる少なくとも 2 つの隣接する部位を含むステップ、

放射線源を用いて、前記硬化性歯科用コンポジットに照射するステップであって、前記放射線源から最も離れた部位の硬化が最初に開始されるステップ、および、

前記硬化性歯科用接着剤を硬化させ、前記歯科用コンポジットを前記接着剤で前記表面に接着させるステップ、

を含む、表面に接着される歯科用材料を形成する方法。

【請求項 2】

表面に硬化性歯科用接着剤を塗布するステップ、

前記硬化性歯科用接着剤を少なくとも部分的に硬化させるステップ、

前記表面上の前記少なくとも部分的に硬化させた歯科用接着剤に硬化性歯科用コンポジットを塗布するステップであって、前記硬化性歯科用コンポジットが光開始剤の濃度の異なる少なくとも 2 つの隣接する部位を含むステップ、および

放射線源を用いて、前記硬化性歯科用コンポジットに照射し、それを前記接着剤で前記表面に接着させるステップであって、前記放射線源から最も離れた部位の硬化が最初に開始されるステップ、

を含む、表面に接着される歯科用材料を形成する方法。

【請求項 3】

表面に硬化性歯科用接着剤を塗布するステップ、

前記表面上の前記硬化性歯科用接着剤に硬化性歯科用コンポジットを塗布するステップ

であって、前記硬化性歯科用コンポジットが異なる光開始剤を有する少なくとも2つの隣接する部位を含むステップ、

放射線源を用いて、硬化性歯科用コンポジットに照射するステップ、および

前記硬化性歯科用接着剤を硬化させ、前記歯科用コンポジットを前記接着剤で前記表面に接着させるステップ、

を含む、表面に接着される歯科用材料を形成する方法。

【請求項4】

表面に硬化性歯科用接着剤を塗布するステップ、

前記硬化性歯科用接着剤を少なくとも部分的に硬化させるステップ、

前記表面上の前記少なくとも部分的に硬化させた歯科用接着剤に硬化性歯科用コンポジットを塗布するステップであって、前記硬化性歯科用コンポジットが異なる光開始剤を有する少なくとも2つの隣接する部位を含むステップ、および

放射線源を用いて、前記硬化性歯科用コンポジットに照射し、それを前記接着剤で前記表面に接着させるステップ、

を含む、表面に接着される歯科用材料を形成する方法。

【請求項5】

前記硬化性歯科用接着剤を硬化させるステップが、前記硬化性歯科用接着剤に照射することを含む、請求項1、2、3又は4に記載の方法。

【請求項6】

前記硬化性歯科用接着剤が、約380nm～約520nmの範囲内の放射線を吸収する光開始剤を含む、請求項5に記載の方法。

【請求項7】

前記硬化性歯科用接着剤の光開始剤がホスフィンオキシドである、請求項6に記載の方法。

【請求項8】

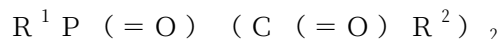
前記前記歯科用コンポジットの光開始剤の少なくとも一つが、約380nm～約520nmの範囲内の放射線を吸収する、請求項1、2、3または4に記載の方法。

【請求項9】

前記前記歯科用コンポジットの光開始剤の少なくとも一つがホスフィンオキシドである、請求項8に記載の方法。

【請求項10】

前記ホスフィンオキシドが、一般式：



(式中、 R^1 はヒドロカルビル基であり、各 R^2 は独立してヒドロカルビル基、S-、O-、又はN-を含有する5員環又は6員環の複素環基である)

のビスアシルホスフィンオキシドである、請求項9に記載の方法。

【請求項11】

前記硬化性組成物が、フリーラジカル重合性組成物、カチオン重合性組成物、又はこれらの組合せを含む、請求項1、2、3又は4に記載の方法。

【請求項12】

前記硬化性組成物の少なくとも一つがフィラーを更に含む、請求項1、2、3又は4に記載の方法。